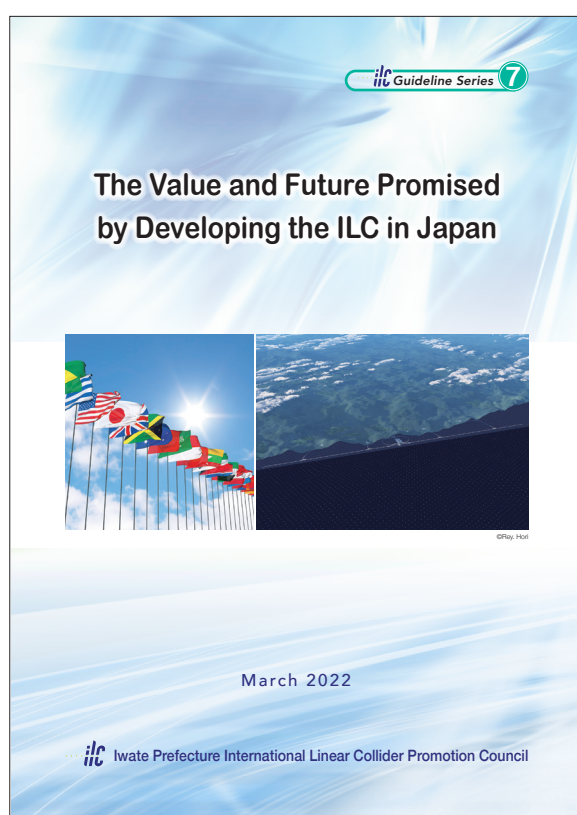


令和 4 年度事業報告書・収支決算書

令和 5 年度事業計画書・収支予算書



令和 5 年 6 月 12 日

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

令和4年度

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(1) 国内・外の状況と活動概況

(2) 国等への要望活動の強化

ア. 国等への要望活動等

イ. 「進言書」説明による支援の要請

ウ. 岩手県南・宮城県北 ILC 誘致期成同盟会設立の支援

(3) 国内・外への ILC 実現にむけた活動

ア. 国内 PR の強化

イ. 海外への情報発信強化

ウ. 普及啓発活動

エ. 岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

オ. 各種刊行物等への寄稿等

(4) 調査・研究活動

ア. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

イ. 東北 ILC 事業推進センターの活動

ウ. ILC ガイドラインシリーズ7「ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』
英語版の発刊

(5) 広報活動

(6) 組織強化活動

ア. 会員増強

イ. 産・学・官・関係機関との連携

(7) 諸会議等

(8) 会員加入状況

(1) 国内・外の状況と活動概況

文部科学省は、令和3年7月に「有識者会議第2期」を再開し、「ヒッグスファクトリーなどの素粒子研究の学術的な意義や分野の重要性を認め、国際共同研究の重要性は理解するものの、国際コミュニティが提案している準備研究所を設立するのは時期尚早と言わざるを得ない」と令和4年2月14日に議論のまとめを公表した。

同年3月末、国際将来加速器委員会(ICFA)が開かれ、4月10日に公表されたステートメントにおいては「国際推進チーム(IDT)の枠組みを継続するとしうえて、今後一年間の国際的議論の進展などを見守る」としており、日本におけるILCの実現に向けて、ここ1年間の活動が非常に重要となった。

建設候補地である東北としては、国内外の研究者と連携を密にしながら、確実に準備段階に移行できるような取組みを続けることが一層重要であり、当協議会として、引き続き岩手県、東北ILC事業推進センターと連携し、建設のための現地課題や受入れ態勢の整備に取り組み、その成果をIDT等に情報提供するなど、候補地のアクティビティを世界にアピールしていく活動を行った。

また、ILCは、学術的意義のみならず多分野・多岐に亘ることから、令和3年度末に発刊したガイドラインシリーズ7「ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」の周知活動や英語版の作成、海外への発信に取り組んだほか、候補地の生活をテーマとしたILCサイト紹介動画を作成し、当協議会ホームページから国内外に発信した。

さらに新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、令和3年度文化功労者に顕彰された岩手県立大学鈴木学長の記念事業を5月に企画し、ILCの科学的意義や素粒子物理学の歴史をテーマとした講演会をハイブリッドで開催した。また、ILCの加速器技術が生み出す社会的発展の動向や、地域とともに新たな地方創生を目指す「グリーンILC」に関するILC公開講演会を開催し、ILC日本誘致による社会的意義を全国に発信した。

令和5年度(2023年度)の国のILC関連予算は9.7億円と概算要求どおり計上され、世界が共同して研究開発に取り組むILCテクノロジーネットワークの取組の方向性に沿った予算となった。

ILCの早期実現のためには、国際的議論の進展が必要であり、研究者コミュニティからの日本のILC実現に向けた具体的な活動計画や日本政府の前向きな方針が示されることが重要であることから、谷村会長が政産学官と地域が連携したILC推進活動が重要とする「日本誘致に関する政府関係者及び有識者への進言書」の共同進言者となり、リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟議員、東北選出国會議員、経済3団体に積極的な支援を要請する活動を行った。

(2) 国等への要望活動の強化

ア. 国等への要望活動等

① ガイドラインシリーズ7「ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」冊子による ILC 超党派 国会議員連衆・参議院議員会館議員事務所への周知活動

令和4年4月15日（金）/衆議院第一・第二議員会館、参議院議員会館事務所

出席：岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・令和3年度末に発刊したガイドラインシリーズ7「ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」の冊子を ILC の早期誘致実現に向けた支援依頼の文書を添えて、超党派 ILC 国会議員連盟所属議員事務所に持参し、理解と支援をお願いした。

② 萩生田光一経済産業大臣と主要団体（農林水産・商工・医療機関）代表者との意見交換会

令和4年4月16日（土）/盛岡グランドホテル

出席：谷村会長

- ・谷村会長から「東日本大震災津波被害からの復興の完遂と、ポストコロナを見据えた岩手県経済再生に向けて」と題する要望書を手交。関係省庁横断の体制を強化し、ILC の早期実現を加速するよう要望した。

③ ILC100人委員会増田寛也代表との ILC 推進打合せ

令和4年5月9日（月）/日本郵政㈱応接室

出席：岩手県立大学鈴木学長、東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・有識者会議の議論のまとめ、国際将来加速器委員会（ICFA）のステートメント公表の内容を共有。ILC の推進について意見交換を行った。

④ 経済同友会との打合せ

令和4年5月9日（月）/経済同友会会議室

出席：経済同友会：岡野事務局長・代表理事、齋藤執行役、大原執行役ほか

岩手県立大学鈴木学長、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・ILC 計画の啓発のため、経済同友会の会員を対象とした「ILC セミナー」の実施を依頼、例会として開催することとし、意見交換を行った。

⑤ 鈴木俊一財務大臣との ILC 推進打合せ会

令和4年6月4日（土）/ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング3階「桐」

出席：鈴木俊一財務大臣、谷村会長、岩手県立大学鈴木学長、国際経済政策調査会吉岡代表理事、岩手県箱石 ILC 推進局長

- ・鈴木俊一財務大臣と有識者会議の議論のまとめ、国際将来加速器委員会（ICFA）のステートメントの内容を共有。日本への ILC 立地問題、国際的な費用負担、令和5年度 ILC 関連予算概算要求について意見交換を行った。

⑥ ILC100人委員会増田寛也代表との打合せ

令和4年6月30日（木）/日本郵政㈱応接室

出席：岩手県立大学鈴木学長、東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・国内外の最新の状況など、今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った。

⑦ 藤原崇財務大臣政務官との打合せ

令和 4 年 6 月 30 日（木）/衆議院第二議員会館事務所

出席：岩手県立大学鈴木学長、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・国内外の最新の状況など、今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った。

⑧ 藤原崇財務大臣政務官、鈴木俊一財務大臣事務所との打合せ

令和 4 年 7 月 22 日（金）/衆議院第二・第一議員会館事務所

出席：岩手県立大学鈴木学長、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・ ILC 候補地期成同盟会の設立の動きや国内外の状況、令和 5 年度 ILC 関連予算概算要求など、今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った。

⑨ 経済同友会 防災・震災復興委員会視察対応

令和 4 年 7 月 29 日（金）13：20～14：00/盛岡商工会議所 2 階特別会議室

経済同友会：石村委員長、石原委員、林委員、齋藤執行役、松村マネージャー

対応者：谷村会長、岩手県立大学鈴木学長、小山田理事、菊池専務理事、岩手県大平理事、猿川事務局長

日 程：7 月 28 日（木）に大船渡市視察。キャッセン大船渡、戸田大船渡市長と意見交換、太平小野田セメント視察後、盛岡市に移動し、谷村会長との意見交換、岩手県八重樫副知事との意見交換。

内 容：谷村会長のあいさつの後、岩手県立大学鈴木厚人学長から ILC の日本誘致に向けた最新の状況や誘致実現による期待される幅広い価値と経済効果について等を説明後、意見交換を行った。

⑩ ILC100 人委員会増田寛也代表との打合せ

令和 4 年 8 月 4 日（木）/日本郵政(株)応接室

出席：岩手県立大学鈴木学長、東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・「進言書」作成の動きや経済同友会主催 ILC 講演会、期成同盟会設立の動向などの情報を共有。今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った

⑪ 日本商工会議所地域振興部との打合せ

令和 4 年 8 月 4 日（木）/日本商工会議所会議室

出席：岩手県立大学鈴木学長、東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・「進言書」作成の動きや経済同友会主催 ILC 講演会などの情報を共有。今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った。

⑫ 日本経済団体連合会との打合せ

令和 4 年 8 月 22 日（月）/日本経済団体連合会会議室

出席：岩手県立大学鈴木学長、東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・「進言書」作成の動きや経済同友会主催 ILC 講演会などの情報を共有。今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った。

⑬ 「ILC 実現建設地域期成同盟会」設立総会

令和 5 年 2 月 8 日（水）15：00～17：00/一関市文化センター大ホール

出席：来賓として谷村会長が出席、菊池専務理事、猿川事務局長同行

(1) 規約の制定について

(2) 役員の選出について

(3) 事業計画について

来賓等挨拶

- ・塩谷 立 リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟 会長
- ・小野寺五典 衆議院議員（宮城県）

決意表明

- ・盛岡市長ほか市町首長

⑭ 東北選出国會議員事務所等への周知活動

令和 5 年 2 月 20 日（月）/衆議院第一・第二議員会館、参議院議員会館事務所

出席：岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・候補地の最新の動きを伝えるべく、「岩手県 ILC 推進協議会主催 ILC 公開講演会」、「ILC 実現建設地域期成同盟会設立総会」の新聞掲載記事を持参し、東北選出国會議員事務所等を訪問した。

⑮ 鈴木俊一財務大臣との懇談会

令和 5 年 2 月 28 日（火）/東京ステーションホテル「丸の内一丁目 しち十二候」

出席：谷村会長、ILC100 人委員会増田寛也代表、岩手県立大学鈴木学長、菊池専務理事

- ・鈴木俊一財務大臣と ILC の最新状況を共有し、今後の ILC 誘致実現への推進活動について意見交換を行った

⑯ 仙台経済同友会との意見交換

令和 5 年 3 月 1 日（水）/仙台経済同友会会議室

出席：岩手県大平理事、猿川事務局長

- ・登米市 ILC 誘致推進協議会猪股会長の依頼により、ILC の最新状況を共有し、令和 5 年度に ILC に関する会員への勉強会として ILC 講演会を開催することとした。

イ. 「進言書」説明による支援の要請

- ・ILC 推進活動の政産学官連携による本来の姿を実現し、政策横断の国家プロジェクトとしての体制整備のため、国内外の ILC 推進関係者が共同進言者となり「日本誘致に関する政府関係者及び有識者への進言書」を策定。リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、東北選出国會議員、日本商工会議所はじめ経済 3 団体に支援を要請した。

説明者 岩手県立大学鈴木学長、岩手県大平理事、猿川事務局長

期 間 令和 4 年 8 月末～令和 5 年 2 月

場 所 衆・参議院議員会館事務所、経済 3 団体会議室

国際リニアコライダー（ILC）プロジェクト 日本誘致に関する政府関係者及び有識者への進言書

国内共同代表進言者

菅原寛孝（元高エネルギー加速器研究機構長）

増田寛也（ILC100 人委員会発起人代表、元総務大臣）

谷村邦久（岩手県商工会議所連合会会長、岩手県 ILC 推進協議会会長）

内永ゆか子（NPO 法人：ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク
（J-Win）会長理事）

大西有三（一般財団法人：国土地盤情報センター理事長、京都大学名誉教授）

山田作衛（元高エネルギー加速器研究機構素粒子・原子核研究所長、
前 ILC 国際技術開発測定器責任者）

鈴木厚人（前高エネルギー加速器研究機構長）

海外共同代表進言者

Barry Barish（前 ILC 国際技術開発総責任者、2017 年ノーベル物理学賞）

Lyn Evans（前 ILC 国際共同推進責任者、CERN 大型ハドロン衝突加速器（LHC）
建設責任者）

Brian Foster（元英国王立協会副会長、前 ILC 国際技術開発副責任者）

I. 序

ILC は世界の高エネルギー物理学者が合意した学術的価値に加え、政策的および社会的観点から、我が国に実現することで得られる「日本の未来のための価値とその可能性」を重視して評価されるべきである。歴史上初めてとなるグローバルプロジェクトの日本での立地を目指し、世界が求める日本のリーダーシップを行使するために、ILC 推進活動の政官産学連携による本来の姿を実現し、政策横断の国家プロジェクトとしての体制整備のために、ここに進言する。

II. 進言 1：2004 年以來の ILC プロジェクト推進経緯と技術開発の現状の理解

- ① 日本に求められていることは、グローバルプロジェクトを日本が先導する前向きの姿勢であり、その上で、国際標準となっている段階的判断・決定プロセスの中で経費分担の議論を進め、その結果を踏まえて誘致の最終判断をすることにある。
- ② ILC プロジェクトは実際の ILC 建設地を考慮した建設の工学設計の段階に入っている。KEK 機構長は、上記の 18 年間に及ぶ国際的な ILC プロジェクト推進の経緯と加速器技術開発の現状を踏まえて、国際・国内活動を先導すべき立場にある。
- ③ 国際プロセスにおいては、日本の政府レベルでのリーダーシップとその前向きな議論により、日米欧の連携が進む段階にきている。

Ⅲ. 進言 2 : 文科省有識者会議報告を ICFA 声明と国際的経緯（進言 1 参照）に基づく 検証

「有識者会議報告要旨」（2022 年 2 月 14 日）及びそれに対する見解

- 有識者会議における「ILC 計画の今後の見通しを明確にするような大きな進展は見られない」とした論拠と結論は、これまでの国際的経緯、及び ICFA 声明に記されている国際的な現状認識と明らかに乖離していると言わざるを得ない。
- 「立地問題を一旦切り離して」とされているが、ILC 日本誘致は国家プロジェクトとして幅広い意義があり、そのため、政治・産業界・地域・学界が一致協力して 20 年以上に及ぶ誘致活動を展開してきているし、それはまた国際的にも承認されている。この有識者会議の見解は、ILC の意義やこれまでの国際的な推進の経緯や実績を無視して出されたものである。日本における ILC プロジェクトの推進経緯を踏まえた、国家プロジェクトとしての政官産学連携による推進体制を早急に実現しなければならない。

「ICFA 声明要旨」（2022 年 4 月 10 日）

- この声明は、既に有識者会議報告を受けて、世界各国の研究者から出されている“Looking elsewhere : 我々は、ILC の研究を進めるために日本の同僚と引き続き協力すべきですが、今は世界の他の場所で、リニアコライダーのホストを見つけることにもっと注意を向けるべきです（Physics World 誌 3 月 1 日号）”等の日本離れの動きに配慮した、ICFA の最大限の譲歩と捉えるべきである。

Ⅳ. 進言 3 : ILC プロジェクトの誘致実現に向けて

大型国際科学技術拠点となる ILC は、科学技術創造立国、経済安全保障、新たな国の創生、復興、国土強靱化、高度人材の集約、科学技術イノベーション等の多岐の政策に亘る壮大な計画であり、既に高い評価を得ている学術的価値に留まらず、誘致することで得られる新たな価値も生じる。この幅広い価値創造への期待は、経済界からも公表されている。こうした多様な価値への評価をもとに、国家プロジェクトとして誘致を実現する。

- ILC は日本が先導して実現するグローバルプロジェクトとして、国際的な賛意を得た計画であり、科学外交を進める好機と考えられる。アジア初のグローバル大型プロジェクトの実現には、誘致を目指す国が主導して国際連携を強化し、プロジェクトの法的基盤、諸経費・物資調達分担、雇用形態等々の管理・運営基盤の国際的合意に努めなければならない。
- これらの経緯を踏まえた上で、最終的な誘致宣言の段階に至る。

ウ. 岩手県南・宮城県北 ILC 誘致期成同盟会設立の支援

- ・ 岩手県南・宮城県北 ILC 誘致期成同盟会の設立にむけた打合せ会、発起人会等に猿川事務局長が出席し、設立への支援を行った。設立総会は令和 5 年 2 月 8 日（別掲）

(3) 国内・外への ILC 実現に向けた活動

ア. 国内 PR の強化

①経済同友会 国際リニアコライダーに関する講演会

(地域共創委員会/防災・震災復興委員会 共催会合)

令和 4 年 8 月 1 日 (月) 14:00~15:30/日本工業倶楽部 3 階大ホール (WEB 併用)

演 題 アジア初の国際研究機関 ILC の「日本の未来のための価値とその可能性」

講 師 鈴木厚人氏 (岩手県立大学長・東北大学名誉教授、高エネルギー加速器研究機構名誉教授)

資 料 ILC ガイドラインシリーズ7 ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』

出 席 東京大学山下特任教授、岩手県大平理事、猿川事務局長

参加者 会場出席 41 名、WEB 出席 47 名

②ILC 推進連絡会による活動：ILC 推進団体の連携

ILC 推進連絡会は、ILC の連携推進体制の強化のため、研究者、高エネルギー加速器研究機構 (KEK)、先端加速器科学技術推進協議会 (AAA)、岩手県 ILC 推進局、東北 ILC 推進協議会、東北 ILC 事業推進センター、岩手県 ILC 推進協議会で組織され、国内外の推進状況の情報共有と ILC 超党派国会議員連盟の活動や要望活動、オールジャパン体制での広報活動などを行った。

推進連絡会は月 2 回開催 (第 47 回~第 60 回): 於 リモート開催

国際推進チーム (IDT) の提案、国内研究者コミュニティによる文科省へのとりまとめ、第 2 期有識者会議の状況など、ILC を取り巻く国内外の状況を共有した。

③ILC プロジェクト動画の PR

岩手県 ILC 推進協議会が制作し、令和 2 年 1 月 31 日から先端加速器科学技術推進協議会 (AAA) のホームページと高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の YouTube チャンネルで公開している ILC プロジェクト動画の視聴状況は以下の通り。

タイトル 「日本が変わる 世界を変える 国際リニアコライダー (ILC)

~世界をリードする科学と社会の国際モデルを目指して~

フルバージョン (25 分) ショートバージョン (5 分)

視聴回数 フルバージョン 10,847 回 (8,043 回) ショートバージョン 5,712 回 (5,024 回)

合計 16,559 回: 令和 5 年 3 月 31 日現在 (13,067 回: 令和 4 年 3 月 31 日現在)

④ILC 講演会 (東京) 開催に向けた打合せ

- ・ ILC の社会的意義を国内外に向けて発信し、メディアの理解を促進する講演会の東京開催が企画され、関係団体との打合せ会に猿川事務局長が出席した。

イ. 海外への情報発信強化

①ドイツ国費奨学生視察対応

日 時 令和 4 年 6 月 21 日 (火) 15:20~16:00

場 所 岩手 ILC 連携室オープンラボ

参加者 ドイツ国費奨学生 8 名、事務局 2 名

内 容 ドイツ学術交流会 (DAAD) 東京事務所から、ドイツ政府国費奨学金プログラム「日本語学習と企業内研修」



での ILC についての説明を依頼され、岩手県 ILC 推進局の協力を受け、岩手 ILC 連携室オープンラボに講話の場を設けた。「加速器とその歴史、ILC の概要」について吉岡 正和高エネルギー加速器研究機構名誉教授から奨学生に説明し、質疑応答を行った。(全編英語)

②国際スクール「Iwate Collider School 2023 in 安比」(共催)

素粒子物理を先導する国内外の講師を招き、基礎から最先端まで高い専門性や国際的通用性を持つ若手研究者の育成を目的とした実習形式のスクール合宿が岩手安比高原で開催された。

主 催：高エネルギー加速器研究機構 (KEK)、岩手大学

日 時：令和 5 年 2 月 27 日 (月)～3 月 4 日 (土)

場 所：ANA クラウンプラザリゾート安比高原

(現地・オンライン開催)

参加者：大学院生、若手研究者

内訳：受講者数 24 名 (日本機関所属者 17 名、外国機関所属者 7 名)

オンライン 52 名 (日本機関所属者 32 名、外国機関所属者 20 名)

講 師：日本機関所属者 6 名、外国機関所属者 5 名

※スクールの様子はホームページで公開

<https://ics.sgg.iwate-u.ac.jp/index.php/photos/>



③ILC 英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」の発刊 (当協議会ホームページ内)

海外の研究者等に ILC の候補地である北上サイトや岩手県内の観光やイベント情報、ILC 実現に向けた地域の取組等を英語版の広報紙としてウェブ上に掲載し、北上サイトに対する理解や機運醸成に努めた。

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日 141 刊～164 刊 (24 刊) 発刊。

④ILC サイト紹介動画の発信

海外の研究者等に建設候補地周辺地域の日常、風景、暮らしを知ってもらうための地域紹介動画を令和 3 年度に制作、PR カードの作成・配布や各推進団体等の SNS により周知を行った。

タイトル 『Iwate prefecture : The ILC candidate site』

⑤英語版ホームページ (THE KITAKAMI TIMES) の一部改修

英語版ホームページにてブログ形式での記事を公開しているが、知りたい記事を閲覧しづらい状況にあり、アクセスを容易にするため、記事をカテゴリ分けするなど一部改修を行った。

ウ. 普及啓発活動ー①. 公開講演会等

① 岩手県立大学鈴木厚人学長文化功労者顕彰特別記念講演会 (ハイブリッド開催)

日時 令和 4 年 5 月 18 日 (水) 15 : 00～15 : 45

会場 盛岡グランドホテル「ウェルカムプラザ」

主催 岩手県 ILC 推進協議会

内容 「宇宙創成と国際リニアコライダー」

講師：カリフォルニア大学バークレー校教授



村山 齊 氏

「鈴木さんと私」(ビデオメッセージ)

講師：高エネルギー加速器研究機構 元機構長

菅原 寛孝 氏

「素粒子と宇宙、鈴木厚人先生」

講師：高エネルギー加速器研究機構 名誉教授

吉岡 正和 氏

特別記念講演会

「私の研究歴：三度目の正直」

令和3年度文化功労者

岩手県立大学 学長 鈴木 厚人 氏

・会場入場者約200名。オンライン聴講約100名。

○岩手県立大学鈴木厚人学長『文化功労者顕彰記念祝賀会』

日時 令和4年5月18日(水) 16:00~17:30

会場 盛岡グランドホテル「鳳凰の間」

発起人代表 岩手県商工会議所連合会会長谷村邦久

発起人 岩手県知事達増拓也、岩手県議会議長五日市王、岩手県市長会会長谷藤裕明、岩手県町村会会長鈴木重男、岩手日報社代表取締役社長東根千万億、岩手大学学長小川智、岩手医科大学理事長小川彰、岩手県立大学理事長千葉茂樹

出席者 138名

②ILC 講演会～平泉黄金文化から ILC へ～ (共催)：動画配信

主催 岩手県

共催 一関市、岩手県 ILC 推進協議会

日時 令和4年7月24日(日) 13:00~15:30

会場 東山地域交流センター

講演 「平泉文化を支えた北上山地の黄金」

岩手大学 平泉文化研究センター客員教授

千葉 信胤 氏

「北上山地の成り立ちー5億年の歴史ー」

東北大学 名誉教授 永広 昌之 氏

「北上山地と ILC」

東北大学大学院 理学研究科 准教授 佐貫 智行 氏

・会場入場者 80名

③グリーン ILC セミナー (共催)：動画配信

主催 岩手県

共催 東北 ILC 事業推進センター、岩手県 ILC 推進協議会

日時 令和4年9月7日(水曜日) 13時30分~16時45分

会場 一関文化センター中ホール

挨拶 一関市長 佐藤 善仁 氏

講演 「ILC の最近の動向について」

講師：岩手県理事

大平 尚 氏

「岩手県の林産業を踏まえたカーボンニュートラルの解説」

講師：高エネルギー加速器研究機構 名誉教授・岩手大学／岩手県立大学 客員教授

吉岡 正和 氏

「一関市の森林資源における CO2 の吸収について」

講師：一関市農林部農地林務課・地域林政アドバイザー

菊池 宏 氏

「地域資源を生かしたカーボンニュートラルに向けたまちづくり」

講師：株式会社 NTT ファシリティーズカスタマーソリューション本部街づくり推進部

東北担当部長 平井 貞義 氏

「西栗倉村の森林を生かした地域づくりについて」

講師：民間スピーカー 株式会社西栗倉・森の学校 執行役員

西岡 太史 氏

講師：行政スピーカー 岡山県西栗倉村役場 地方創生特任参事

上山 隆浩 氏

会場とのディスカッション コーディネーター 吉岡 正和 氏

・会場入場者 140 名

④ ILC 公開講演会（ハイブリッド開催）：動画配信

日時 令和 5 年 1 月 23 日（月）13：30～15：15

会場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング 4 階メトロポリタンホール

講演 「ILC の動向と技術的な発展について」

講師：広島大学大学院教授、日本加速器学会第 10 期会長

栗木 雅夫 氏

「大型国際研究機関日本誘致の意義とグリーン ILC」

講師：高エネルギー加速器研究機構 名誉教授

吉岡 正和 氏

・会場入場者約 150 名。オンライン聴講約 500 名。



⑤ グリーン ILC セミナー（共同主催）：動画配信

主催 岩手県、東北 ILC 事業推進センター、岩手県 ILC 推進協議会

日時 令和 5 年 2 月 10 日（金）13：30～16：30

会場 一戸町コミュニティセンター多目的ホール

挨拶 岩手県 ILC 推進局長 箱石 知義 氏

一戸町長 小野寺 美登 氏

講演 「ILC の最近の動向とグリーン ILC について」

講師：岩手県理事

大平 尚 氏

「岩手県における森林資源の循環利用に向けた取組について」

講師：岩手県農林水産部技術参事兼林業振興課総括課長

工藤 亘 氏

「けせんプレカット 30 年の歩みと未来の事業戦略について」

講師：けせんプレカット事業協同組合代表理事

泉田 十太郎 氏

事例報告 「環境省が選定した脱炭素専攻地域における木質バイオマスを活用して地域形成の事例について」

講師：NTT ファシリティーズ東日本事業本部東北本部

東北支店エリアリレーション推進室長

渡邊 優一 氏

「岡山県西栗倉村の事例をどう地域に生かすか」

講師：宮城学院女子大学生活文化デザイン学科 4 年

柴田 弥優羽 氏

会場とのディスカッション コーディネーター 高エネルギー加速器研究機構名誉教授

吉岡 正和 氏

・会場入場者 62 名

ウ. 普及啓発活動②. 学生向け講演会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催なし。

ウ. 普及啓発活動③. その他（後援・協力等）

①（一社）国際経済政策調査会「第 109 回加速器科学研究会」（協力）

令和 4 年 5 月 25 日（水）14:00～15:30 於：ザ・キャピトルホテル東急

主催：（一社）国際経済政策調査会（吉岡 正和代表理事）

来賓挨拶：鈴木俊一財務大臣（ビデオメッセージ）

講演：「ILC in Japan 実現に向けて」

講師：東北 ILC 事業推進センター 代表 鈴木 厚人 氏（岩手県立大学長）

②「東北 ILC 推進協議会 ILC 講演会」（共催）（参加者 約 100 名）

令和 4 年 6 月 17 日（金）13:30～14:45 於：ホテルメトロポリタン仙台

主催：東北 ILC 推進協議会

共催：（一社）先端加速器科学技術推進協議会（AAA）、東北 ILC 事業推進センター、岩手県国際リニアコライダー推進協議会

講演：「Big Science と社会」

講師：東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構

教授・副機構長 横山 広美 氏

①（一社）国際経済政策調査会「第 110 回加速器科学研究会」（協力）

令和 4 年 9 月 6 日（火）14:00～15:30 於：ザ・キャピトルホテル東急

主催：（一社）国際経済政策調査会（吉岡 正和代表理事）

来賓挨拶：鈴木俊一財務大臣（メッセージ：吉岡代表理事代読）

講演：「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想と経済安全保障」

講師：衆議院議員 甘利 明 氏

② VACUUM2022 真空展「国際リニアコライダー計画展」

令和 4 年 10 月 19 日（水）～10 月 21 日（金）

於：東京ビッグサイト（東京都）

主催：日本真空工業会、日本表面真空学会、日刊工業新聞社

来場者数：延べ 21,796 名

内容：岩手県・関係自治体、関連機関と連携して実施。

超伝導加速器空洞大型ポスター展示、ILC リーフレットや観光パンフレットによる北上サイト周辺自治体の PR を行った。

同時開催：2023 洗浄総合展、2023 国際ロボット展、先端材料技術展 2022、表面改質展 2022、防災産業展



③ （一社）国際経済政策調査会「第 111 回加速器科学研究会」（協力）

令和 4 年 11 月 10 日（木）14:00～15:30 於：ザ・キャピトルホテル東急

主催：（一社）国際経済政策調査会（吉岡 正和代表理事）

講演：「ILC 北上候補サイトにおける地下施設検討の状況」

講師：東北大学大学院工学研究科土木工学専攻

教授 京谷 孝史 氏

④ （一社）国際経済政策調査会「第 112 回加速器科学研究会」（協力）

令和 5 年 2 月 20 日（月）14:00～15:30 於：赤坂インターシティエア会議室

主催：（一社）国際経済政策調査会（吉岡 正和代表理事）

講演：「ILC 加速器の革新性と成熟性」

～ここまできた ILC 加速器技術開発～

講師：広島大学先進理工系科学研究科

教授 栗木 雅夫 氏

⑤ 「東北 ILC 推進協議会 ILC 講演会」（共催）（参加者 約 140 名）

令和 5 年 3 月 1 日（水）13:30～15:00 於：ホテルメトロポリタン仙台 曙東・オンライン併用

主催：東北 ILC 推進協議会

共催：（一社）先端加速器科学技術推進協議会、東北 ILC 事業推進センター、岩手県国際リニアコライダー推進協議会

講演：「ILC 推進の現状と課題について」

講師：高エネルギー加速器研究機構 機構長 山内 正則 氏

講演：「ILC テクノロジーネットワークの取組について」

講師：高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 教授 道園 真一郎 氏

エ. 岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

・平成 30 年 4 月、ILC の中核部品であるクライオモジュールの実機の展示や ILC の関連情報を集約して、ILC への参入を目指すものづくり事業者や興味を持つ児童、教師など誰もが学習・研究でき

る拠点として岩手県先端技術研究センター内に開設。令和 4 年度は、グリーン ILC パンフレット A1 版ポスターパネルを作成するなど、展示物の拡充を行った。

見学者 9 団体 151 名

(令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)



オ. 各種刊行物等への寄稿等

- ・谷村会長（盛岡商工会議所会頭）が、日本商工会議所 100 周年メッセージにおいて、「アジア初の大規模国際科学技術拠点」となり、「新しい世界とつながる地方創生のモデル」となる ILC の誘致実現に向けて、日本商工会議所から政府への強力な働きかけを呼びかけた。

(4) 調査・研究事業

ア. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会他と連携したセミナー

①第 1 回 ILC 技術セミナー（後援）

令和 4 年 6 月 1 日（水）14:40～／於：プラザおでって（ハイブリッド開催）

主催：いわて加速器関連産業研究会

基調講演 「ILC 誘致に関する最近の動向について」

吉岡 正和 氏（いわて産業振興センター 加速器コーディネーター）

講演 1 「風力発電関連への取組み ～秋田からの挑戦～」

佐々木 昭二 氏（㈱三栄機械 営業部長）

講演 2 「加速器関連事業に対する当社の取組みについて」

海鋒 徹哉 氏（白金運輸㈱ 代表取締役）

報 告「秋田県内の加速器関連産業の動向」

山川 清志 氏（秋田県産業技術センター 共同研究推進部 専門員）

②第 2 回 ILC 技術セミナー（後援）

令和 4 年 8 月 25 日（水）14:00～／於：岩手大学理工学部・復興記念銀河ホール（ハイブリッド開催）

主催：いわて加速器関連産業研究会・岩手大学（幹事）・岩手県立大学・岩手医科大学

講演 1 「次世代放射光施設 NanoTerasu（ナノテラス）の概要と本学の取組み」

吉本 則之 氏（岩手大学理工学部 教授）

講演 2 「放射光で何が観られるのか？産業分野における国内外の施設及び事例紹介」

廣沢 一郎 氏（九州シンクロトロン光研究センター ビームライングループ長）

講演 3 「SPring-8 の特徴と企業の利用事例紹介」

渡辺 剛 氏（公益財団法人高輝度光科学研究センター）

報 告 「令和 3 年度放射光トライアルユースを活用した蓄熱材ハスクレイの解析」

佐々木 明日香 氏（東日本機電開発㈱企画開発部門）

③第 3 回 ILC 技術セミナー（後援）

令和 4 年 10 月 24 日（月）13:30～／於：岩手県先端科学技術センター ILC オープンラボ

主催：いわて加速器関連産業研究会・岩手大学・岩手県立大学・岩手医科大学（幹事）

講演 1 「当社の接合技術と会社紹介」

長澤 豊 氏 (株)金属技研技術本部テクニカルセンター次長)

「ILC 加速器の性能を決める様々な要因 ―熱、表面、アライメント―」

栗木 雅夫 氏 (広島大学大学院教授)

「ILC における陽電子源について」

大森 恒彦 氏 (高エネルギー加速器研究機構シニアフェロー)

④第 4 回 ILC 技術セミナー (後援)

令和 5 年 1 月 18 日 (水) 13:30~ / 於: オンライン開催

主催: いわて加速器関連産業研究会・岩手大学・岩手県立大学 (幹事)・岩手医科大学

内容: 挨拶 岩手県立大学 学長 鈴木 厚人 氏

講演 1 「ガンジス川浄化プロジェクトの概要」

濱 広幸 氏 (東北大学 電子光理学研究センター 教授)

講演 2 「High Tc 高温超伝導 RF 加速器について」

井藤 隼人 氏 (高エネルギー加速器研究機構 助教)

企業紹介 「メッキの最前線」

講演 3 高橋 亮 氏 (株)秋田化学工業 技術科)

挨拶 いわて加速器関連産業研究会 会長 水戸谷 剛 氏

⑤第 5 回 ILC 技術セミナー (後援)

令和 5 年 3 月 28 日 (火) 13:30~ / 於: 岩手県工業技術センター大ホール/ハイブリッド開催

主催: いわて加速器関連産業研究会・岩手大学・岩手県立大学・岩手医科大学 (幹事)

内容:

講演 1 「広域医療と医療における DX」

小川 彰 氏 (岩手医科大学 理事長)

講演 2 「災害と医療」

笠井 健 氏 (北良(株) 代表取締役)

企業紹介 「医療用加速器への参入事例」

内田 和秀 氏 (Cosylab Japan(株))

イ. 東北 ILC 事業推進センターの活動

東北 ILC 事業推進センターは、ILC 国際推進チームはじめ研究者コミュニティと密接な連携の下、建設候補地周辺の関係機関が協働して建設に必要な条件整備、受け入れ態勢の整備等について、地域が主導して検討を進めることを目的としている。

構成団体: 岩手県、宮城県、仙台市、盛岡市ほか候補地周辺自治体、東北大学、岩手大学、

岩手県立大学、岩手県 ILC 推進協議会 22 団体

連携機関: (一社) 先端加速器科学技術推進協議会 (AAA)、東北 ILC 推進協議会

協力機関: 高エネルギー加速器研究機構 (KEK)

代表: 岩手県立大学鈴木厚人学長

部会・部会長 地下施設検討部会: 東北大学大学院 京谷 孝史 工学研究科教授

実験措置組立・検査拠点及び物流に関する検討部会: 岩手大学 早野 仁司 客員教授

まちづくり・受入環境整備検討部会: 岩手県立大学 鈴木 厚人 学長

ILC 理解促進部会：岩手大学 成田 晋也 理工学部教授
加速器関連産業検討部会：岩手大学 吉岡 正和 客員教授
環境影響検討部会：岩手大学 成田 晋也 理工学部教授
グリーン ILC 検討部会：岩手大学 吉岡 正和 客員教授

会議等

○東北 ILC 事業推進センター会議

毎週火曜日 9：00～10：00／岩手県立大学アイーナキャンパス学習室

メンバー：岩手県立大学鈴木学長、岩手大学・岩手県立大学吉岡客員教授、岩手大学成田教授、東北大学京谷教授、東北大学佐貫准教授、岩手大学早野客員教授（KEK）、岩手県 ILC 推進局、岩手県 ILC 推進協議会（齋藤理事、猿川事務局長）

・各部会活動の進捗や課題等について協議のほか、国内外の ILC の最新状況について情報を共有している。

○令和 4 年度総会

令和 4 年 6 月 10 日（金）／書面決議

議事

- (1) 令和 3 年度事業報告及び収支決算の承認について
- (2) 令和 4 年度事業計画案及び収支予算案の決定について
- (3) 規約の一部改正について
- (4) 役員の選任について

○第 1 回幹事会

令和 4 年 5 月 24 日（火）10：30～12：00／オンライン開催

議題

- (1) 総会提出議案について
- (2) 総会の書面開催について

○第 2 回幹事会

令和 5 年 1 月 10 日（火）10：30～12：00／オンライン開催

議題

- (1) 令和 5 年度事業の基本的考え方等について
- (2) 今年度の部会等の活動状況について
 - ・全体
 - ・地下施設検討会
 - ・実験装置組立・検査拠点及び物流に関する検討部会
 - ・まちづくり・受入環境整備検討部会
 - ・ILC 理解促進部会
 - ・環境影響検討部会
 - ・加速器関連産業振興部会
 - ・グリーン ILC 検討部会
- (3) 令和 4 年度予算の執行状況について

○第3回幹事会

令和5年3月27日（月）10:00～12:00／オンライン開催

協議

- (1) 令和4年度の事業実績と決算見込みについて
- (2) 令和4年度支出予算執行残額の返還について
- (3) 令和5年度事業計画（素案）及び予算（素案）について

ウ. ILC「ガイドラインシリーズ7 ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」英語版発刊

令和3年度「ガイドラインシリーズ7 ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」としてまとめた冊子の英語版「The Value and Future Promised by Developing the ILC In Japan」を1,000部作成し、海外からの視察や国際会議等で配布するとともに、当協議会のホームページから発信した。

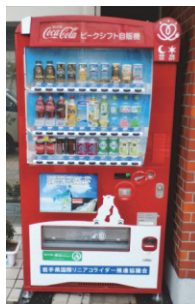
（5）広報活動

①ILC 誘致実現支援自動販売機」の継続設置

みちのくコカ・コーラボトリング(株)様のご協力を得て、売上の一部が ILC の誘致実現の活動（当協議会の活動等）に寄付される自動販売機を県内3か所に継続して設置している。



盛岡市（マリオス 3F）



奥州市（ダイコー壺番館）

②PR 用 ILC オリジナルメモ帳の作成・配布

ILC オリジナルメモ帳 5,500 冊を岩手県 ILC 推進局、自治体と合同で作成し、イベント等で配布した。

③ILC ピンバッジの作成・配布

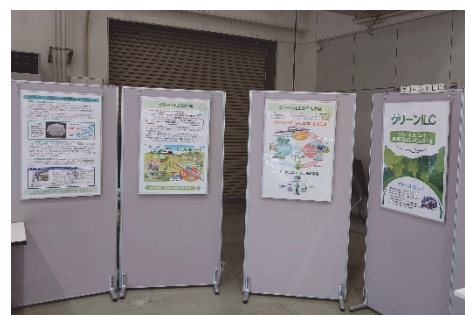
④ILC トートバック・ポリ袋の作成・配布

⑤ILC 啓発用手ぬぐいの作成

⑥ILC パネルの作成

これまでに作成した広報用ツールを活用し、各種イベント等に出展等を実施した。

※当協議会で制作の展示用パネル、地形ジオラマは岩手 ILC 連携室「オープンラボ」内に展示中



⑦イメージキャラクター「ILC そばっち」の活用

ILC への親しみやすさや岩手県が候補地であることのイメージの醸成のため、平成 27 年度に作成。当推進協議会会員等関係機関において広報物等に利用されている。

提供数：3 件（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）



⑧経済団体機関誌による ILC の広報活動

令和 3 年 7 月から「ILC current topics」として ILC の最新の動向についての情報を提供し、各経済団体の機関誌に掲載。令和 4 年度も各会員への周知活動により、関心を高めた。（10 号～20 号）
掲載紙 盛岡商工会議所「SANSА」

岩手県中小企業団体中央会「NEXUS」

岩手県産業振興センター「産業情報いわて」

岩手経済同友会「いわて経済同友」

岩手県商工会連合会「商工会いわて」

岩手経営者協会「いわて経協」

（6）組織強化活動

ア. 会員増強

・法人・団体会員は 19 会員の減（新規加入 1、退会 20）、個人会員 10 会員の減（新規加入 0、退会 10）。会員状況については別掲。

イ. 産・学・官・関係機関との連携

■（一社）先端加速器科学技術推進協議会（AAA）との連携

①総会

令和 4 年 6 月 16 日（木）／三菱重工(株)会議室・オンライン

報告 2021 年度事業報告の件

議事 2021 年決算報告・監査報告の件、2022 年度事業計画の件、2022 年度予算の件、2022 年度役員選任の件

報告 1 「ILC をめぐる国際情勢」 ILC 国際推進チーム 議長 中田達也 氏

報告 2 「ILC の現状と課題」 ILC ジャパン 代表 浅井祥仁 氏

②理事会

第 39 回理事会 令和 4 年 5 月 23 日（月）／オンライン

議事 2022 年度通常総会議案の件

事務局長任命の件

③その他

事務局会議、広報部会、技術部会、プロジェクト部会の活動に参画した。

■東北 ILC 推進協議会との連携

①総会

令和 4 年 7 月 8 日（金）／江陽グランドホテル

議事 令和3年度事業報告・決算、令和4年度事業計画・予算、役員の選任（案）について
ILCの日本誘致に関する決議（案）について

講演 「ILC 日本誘致への取組について」

講師 ILC ジャパン 代表 浅井 祥仁 氏

②第1回幹事会

令和4年5月20日（金）／オンライン

議事 令和4年度総会等の議事について（案）

③第2回幹事会

令和5年3月29日（木）／オンライン

議事 令和4年度事業報告及び決算見込みについて

令和5年度事業計画の方向性案、予算案について

■いわてまるごと情報科学実行委員会との連携

①いわてまるごと科学・情報館 in 釜石

令和4年7月16日（土）／於：釜石市 TETTO

概要 岩手県 ILC 推進協議会ブースを出展。岩手県 ILC 推進局と ILC-VR、リーフレット、ポスター等を展示。

②いわてまるごと科学・情報館 in 滝沢

令和4年12月16日（金）～17日（土）／於：滝沢ビッグルーフ

概要 岩手県 ILC 推進協議会ブースを出展。岩手県 ILC 推進局と ILC-VR、リーフレット、ポスター等を展示。当協議会作成の ILC うまい棒を配布した。



■岩手県 ILC 推進局との連携

①連絡会議

・毎月1回、相互の活動状況や今後の活動計画等について意見交換を実施。

（7）諸会議等

■役員会

①第1回役員会

令和4年6月13日（月）13:30～14:45／於：ホテルメトロポリタン盛岡 NW

議事 (1) 令和3年度事業報告並びに収支決算について
(2) 令和4年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について
(3) 役員改選について

報告「令和4年度岩手県の ILC 推進について」

岩手県 ILC 推進局 箱石 知義 局長

講話「ILCの国内外の状況について」

東京大学素粒子物理国際研究センター特任教授 山下 了 氏



■幹事会

①第1回幹事会

令和4年5月30日（月）15:00～16:00／於：盛岡商工会議所
議事（1）役員会提出議案について

■監査会

令和4年5月30日（月）16:00～16:30／於：盛岡商工会議所
令和3年度会計監査を実施。

| | |------------------------| | （8）会員加入状況（令和5年3月31日現在） | |------------------------|

合計543会員（法人・団体492会員、個人51会員）

※29会員減：年度当初 572会員（法人等509、個人63）

令和4年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支決算書

自)令和4年 4月 1日

至)令和5年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	10,670,000	11,130,000	△ 460,000	
(1)法人会費	10,440,000	10,860,000	△ 420,000	予算:489会員/543口 → 決算:475会員/522口
(2)個人会費	230,000	270,000	△ 40,000	予算:50会員/54口 → 決算:42会員/46口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	3,239,489	2,121,932	1,117,557	祝賀会講演費159万、東北ILC推進センター負担金一部返還53万、ILCメモ帳負担金29万、寄附金(みちのくコカ・コーラ共生会)20万ほか
4. 繰越金	14,198,068	14,198,068	0	
合 計	28,607,557	27,950,000	657,557	

■支出の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	11,499,266	20,150,000	△ 8,650,734	文化功労者祝賀事業費 301万 東北ILC事業推進センター負担金 150万 講演会等開催費 134万 「進言書」支援等要望関係旅費等 120万 共催講演会動画作成・発信費 113万 ILCメモ帳、ピンバッジ等啓発グッズ代 74万 HP管理・改修費(日本語・英語)50万 ILC国際スクール負担金 50万 ILCガイドラインシリーズ7英語版印刷費 41万 事業報告書印刷費 32万 関係団体会費 10万 …ほか
2. 会議費	100,943	300,000	△ 199,057	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,602,475	1,800,000	△ 197,525	
(1)旅費	50,440	100,000	△ 49,560	推進団体総会等参加費
(2)印刷費	98,426	200,000	△ 101,574	資料コピー代、封筒代ほか
(3)通信運搬費	253,609	300,000	△ 46,391	事業報告書・講演会案内等配送料
(4)事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	140,355	150,000	△ 9,645	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	0	5,550,000	△ 5,550,000	
合 計	13,343,039	27,950,000	△ 14,606,961	

次年度繰越

15,264,518

貸 借 対 照 表

令和5年3月31日

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	15,264,518	流動負債	0
現金	0		
預金	15,264,518		
未収金	0		
固定資産	0	未処分剰余金	15,264,518
		当期剰余金	15,264,518
合 計	15,264,518	合 計	15,264,518

財 産 目 録

令和5年3月31日

■資産の部

(単位:円)

1. 現金	0
2. 普通預金	15,264,518 (岩手銀行)
3. 未収金	0

資産合計 15,264,518

■負債の部

(単位:円)

負債合計 0

差引正味財産 15,264,518

令和4年度会計監査報告書

岩手県国際リニアコライダー推進協議会の令和4年度収支決算について監査をいたしましたところ、収入、支出ともに諸帳簿及び関係書類等と適合し、適正かつ正確に処理されていることを確認いたしましたので、ここに報告いたします。

令和5年5月30日

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

監事 熊谷 敏裕



監事 瀬川 浩昭



令和 5 年度事業計画（案）

2023 年 2 月、ILC 建設候補地周辺自治体の長等により「ILC 実現建設地域期成同盟会」が設立された。4 月にはリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟の拡大総会が開催され、新役員による新しい体制でスタートを切った。

世界の研究者組織である国際将来加速器委員会（ICFA）は、国際推進チーム（IDT）の枠組みを継続し、ILC のための技術の完成と ILC 実現の機運醸成を目的とした ILC テクノロジーネットワークの設立と国際有識者会議による国際的な協議を進める活動を行っている。

当推進協議会は、国内外の動向に臨機に対応するため、その動向を注視しつつリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟や ILC 推進関係団体、経済 3 団体、ILC 実現建設地域期成同盟会との連携を強化し、省庁横断による国家プロジェクトとして政府主導による国際的な議論を推進するよう国等への働きかけを強化する。

また、地域が主体となって具体的な調査・検討を進めている東北 ILC 事業推進センターと連携し、建設のための現地課題や受入れ態勢の整備等の準備活動に積極的に取り組むとともに、ILC 日本誘致がもたらす社会的意義の発信のため「ガイドラインシリーズ 7 ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」を国内外に対して継続して発信するとともに、グリーン ILC など ILC を契機とする新たな地方創生への理解の促進と ILC 誘致を契機としたまちづくり等の推進に努める。

さらに、国民全体の盛り上がりが不可欠であることから、岩手県から東北、全国、世界に広げる講演会等各種の啓発活動を切れ目なく展開するなど、ILC の誘致実現を岩手県、ILC 関係団体と万全を期して取り組む。

（１）国等への要望活動の強化

- 岩手県国際リニアコライダー推進協議会による要望活動
- 政産官学、地域連携による要望活動
- リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟との連携強化
- 経済 3 団体（日本商工会議所、日本経済団体連合会、経済同友会）との連携強化

（２）国内・外への ILC 実現にむけた活動

■国内 PR の強化

ILC の連携推進体制の強化のために研究者、高エネルギー加速器研究機構（KEK）、先端加速器科学技術推進協議会（AAA）、岩手県、東北 ILC 推進協議会等で構成される ILC 推進連絡会によるオールジャパンとしての活動に参画する。

さらに、関係団体が一体となって ILC の社会的意義を発信する講演会等の開催支援や新聞等メディア等への働きかけに積極的に取り組む。

また、AAA の ILC ポータルサイトである「ILC プロジェクト」による ILC コラム等の発信の強化並びに推進団体が連携した SNS による情報発信等、全国への普及啓発活動に取り組む。

コロナ禍においてオンライン聴講が進んだことから、当協議会主催の ILC 公開講演会は ILC 推進団体と共催開催し、全国から参加を促すとともに、YouTube チャンネルの活用により講演内容を発信するなど国内 PR を一層強化する。

■海外への情報発信強化

ILC に関連する国際ワークショップ（WS）の誘致・開催支援や国際スクール「Iwate Collider School」の開催等の機会を有効に活用し、海外研究者等に対し、積極的な情報発信を行う。

また、引き続き当推進協議会ホームページ「THE KITAKAMI TIMES」等を活用して、ILC 誘致実現に取り組む情報や北上サイトの魅力などを世界に向けて情報発信を行うとともに、世界の研究者を対象とした「候補地紹介動画」の発信や「ガイドラインシリーズ7 ILC 日本誘致が生み出す『価値』と『未来』」の英語版を国際学会等で配布するとともに、ホームページから世界に発信する。

■普及啓発活動

ILC の最新動向や社会的意義、東北 ILC 事業推進センターの活動等をテーマとした ILC 公開講演会を開催し、県民、国民全体に ILC 計画の理解促進と啓発に取り組む。

また、岩手県が主催する「まるごと科学館」等の県内イベントに関係団体等と連携して出展を行うとともに全国イベントである「真空展 2023」等、県外イベントにも積極的に参画する。

■岩手県 ILC 連携室オープンラボの活用支援

ILC の情報発信拠点、ILC を契機とした産業、人材育成、研究開発の拠点として、平成 30 年 4 月に岩手県先端科学技術研究センター内に開設され、令和 4 年度に研究拠点として施設を拡充した ILC オープンラボの積極的な活用支援を行う。

（３）調査・研究活動

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会と連携して、ILC への加速器産業等参入機会の創出やネットワーク構築の支援に取り組む。

■東北 ILC 事業推進センターの活動支援

東北 ILC 事業推進センターは、ILC 建設候補地周辺の環境整備や研究施設建設等に関し、地域主体で取り組むべき現地課題の検討に取り組んでいる。東北施設計画の調査・検討や物流、組立拠点整備、ILC の技術移転等による産業振興、グリーン ILC の普及啓発、ILC を契機としたまちづくり等受け入れ態勢の整備や準備活動に積極的に参画する。

（４）広報活動

■経済団体機関誌による ILC の広報活動「ILC current topics」の継続

■ホームページによる発信の強化

■YouTube 等 SNS ツールの活用

■ILC 啓発グッズの作成・配布、「ILC そばっち」の活用

（５）組織強化活動

■ILC 誘致実現にむけた活動を強化するため、当推進協議会の会員増に努める。

■先端加速器科学技術推進協議会（AAA）、東北 ILC 推進協議会等と政産官学、地域連携の強化を図る。

（６）諸会議等

■役員会・幹事会の開催

令和5年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支予算(案)

自)令和 5年 4月 1日

至)令和 6年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	10,670,000	11,130,000	△ 460,000	
(1) 法人会費	10,440,000	10,860,000	△ 420,000	475会員/522口
(2) 個人会費	230,000	270,000	△ 40,000	42会員/46口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	1,005,482	2,121,932	△ 1,116,450	東北ILC事業推進センター負担金一部返還、ILCグッズ負担金等
4. 繰越金	15,264,518	14,198,068	1,066,450	
合 計	27,440,000	27,950,000	△ 510,000	

■支出の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	19,440,000	20,150,000	△ 710,000	講演会等開催費(年3回:HP発信費含む):350万 AAA等ILC推進団体共同プロジェクト負担金:200万 国際会議等共催負担金:200万 ILCグッズ作成等事業費:200万 要望等関連旅費:150万 共催講演会動画作成・発信費:150万 東北ILC事業推進センター負担金:150万 ILCのぼり・横断幕作成費:110万 HP管理費(日本語・英語):50万 先進地(ナノテラス)視察費:50万 イベント関連費:40万 事業報告書等印刷代:30万 関係団体諸会費:15万 岩手県商工会議所青年部連合会講演会協賛負担金:10万 国内外イベント等事業予備費:150万 ...ほか
2. 会議費	300,000	300,000	0	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	2,000,000	1,800,000	200,000	
(1) 旅費	300,000	100,000	200,000	関係団体総会・役員会等旅費
(2) 印刷費	200,000	200,000	0	資料コピー代、封筒代ほか
(3) 通信運搬費	300,000	300,000	0	広報物・事業報告書等配送料
(4) 事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	150,000	150,000	0	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	5,550,000	5,550,000	0	
合 計	27,440,000	27,950,000	△ 510,000	